沢田ろうそく祭開催
～奇跡の星“地球”～

今年のテーマは「地球」

2月8日、450年続く奇習「沢田ろうそく祭」が開催された。

開催時間前までは、天候が優れずに不安な気持ちでいた関係者ではあったが、開催時間が近づくにつれて天候は次第に回復し、月が綺麗に見えていた。そのおかげもあり約2000人の方々が訪れた。

今年のメインテーマは「地球」であり、スウェーデンの環境活動家グレタさんから感銘を受け、三上昇さんが名付けたという。このテーマの地球には「近年、地球温暖化によると思われる異常気象や自然災害、そして疫病までもが世界的に多発しており、人類はこれらの現象を二酸化炭素や廃棄物の増加などにより自ら引き起こしているのかもしれない。これは地球の怒りではないかとさえ感じます。人類は「奇跡の星」と言われる美しい地球をいたわり、後世に残すべき義務があるはずだ。」というメッセージが込められている。よってこのろうそく祭をこの先守っていく為にも、毎年見つめ直してさらに良いものにしようと関係者は意気込んでいる。

今年のメインテーマ「地球」が大きく張り出される

地域の団結力の強さ

ろうそく祭450年の歴史が守られてきたのは、沢田地区の方々を始め相馬管内の人達が代々熱い意志を受け継いできたからである。

ろうそく祭開催1カ月前に関係者で会議をし、その中でも関係者役員が口をそろえて言うのは「この祭りを今年も行えることに喜びを感じ、また、来年に繋がるような祭にしていきましょう。」ということ。祭開催前日には弘前大学の学生約20人がボランティアで作業の手伝いにも訪れ、「この歴史ある祭に携わることが出来、作業に精が出る」と言っていた。

当日には相馬地区のハンタークラブの方々が捕獲したクマの肉を使った鍋料理が振る舞われ、毎年このクマ鍋を楽しみにしているという。今ではろうそく祭には外せない存在となっている。他にも商工会女性部や当農協女性部、地域おこし協力隊の佐野夫婦も自慢の料理で店を出していた。

こうした伝統ある祭を毎年盛り上げようと多くの方の力が集まって行なわれている。「来年も更に楽しんでもらえるように頑張り続けたい。」と意気込んでいた。

熱々の鍋が食欲をそそる

飲食テントは沢山の人で賑わった。

様々なろうそくを使った創作品

かまくらの中で願い事をする子供ら

「合格応援かまくら」にろうそくの明かりを灯し、神明様とお月さまのパワーを参拝者に降り注ぐ。

祭会場までろうそくの灯りで来場者を迎える。

この曲線はろうそく自体の姿を隠し、灯りで作り出したものであり、初の試みでイメージ通りに作り出すことが出来たという。

下から出来映えを見上げる三上さん

ろうそくレイアウトの意図を探る

今年のろうそく祭のレイアウトを考えたのは紙漉沢地区の三上昇さんであり、全体的に意識したのは「インスタ映え」であると言う。今流行中のSNSを活用しこのろうそく祭の知名度がもっとメジャー化するような願いも込められているという。

上の写真の曲線の灯りの真ん中にある一番明るい光が「太陽」をイメージし、その左右に伸びる曲線が水平線であり、その下に降り注ぐように幅広い光が差し込む光を作ることで「ご来光」をイメージして作成した。

三上さんは「実際に灯りがどのように照らし出すのか、下から見た時どのようにみえるのか、本番まで不安な気持ちでいたが、上手く表現することが出来て一安心した。」と安堵の表情を浮かべていた。

岩谷堂内では、豊作を願い、家内安全や合格祈願、会社の繁栄等を想いながら、ろうそくを立て翌日のロウの垂れ方や形状により豊凶を占う。今年も多くの方がロウを立てに訪れた。

登山囃子に合わせて松明行列が行われる中、かがり火の周りでは太鼓や囃子に合わせて踊り出す方なども見られ、祭りは最高潮に達した。

参列者は、満月に届きそうな程高く燃え上がるかがり火を見つめ、無病息災などの願いを込めていた。

これからもこの伝統ある祭が行われることを願う